

内政面が目立たないというのは心外

加計報道問題の追及に会社はどう答えたか 中 2018年7月30日生協

本記と一問一答だけでいいのか

藤井 6月19日に加計孝太郎理事長が岡山で会見をした。山陽は、このニュースが1面にない。2面に本記と一問一答があって、それで終わり。展開しているのはこれだけ。まさに意図的だ。朝日は1面、2面で展開し、社説が載っている。毎日1面、3面、第2社会面で展開し、社説が載っている。中国は1面、3面に「表層深層」、それから社説が載っている。加計孝太郎理事長の会見は、問題の大きなポイントだった。前回の団体交渉で「岡山の場合は、加計学園のOBもたくさんいらっしゃって、それに配慮する観点も必要だ」と労担、お答えになられたが、今回は大きなポイントで、安倍首相との会見（面会）を当事者が出てきて否定したということだから、きちっと伝える必要がある。これは1面に掲載されるべきニュースだ。

それから、あの会見は数々の問題点がある。なぜ、あのタイミングだったのか。大阪北部地震とW杯サッカーの日本戦に挟まれた、あのタイミングだったのか。どうして2時間前の通告なのか。どうして地元メディア限定なのか。どうして30分足らずで切り上げたのか。数々の疑問がある。数々の批判すべき点がある。

加計孝太郎理事長の会見は、記者クラブが要請して開いた会見ということになっているが、だとすれば主導権は記者クラブにあるはずだ。どうして加計が、あの会見を取り仕切ったのか。加計が取り仕切ったから、勝手な会見になった。そうしたことは、たいへん問題があるから、きちんと紙面で追及しないとイケない。

それから一番大事なポイント、追及すべき、もう一つのポイントは、安倍首相と会見（面会）していないのに会見（面会）したと言って、加計学園は今治市をだましたのだから、詐欺。だまして税金をかすめ取ったということになる。そうしたことも、きちんと追及しないとイケないが、山陽はできていない。本記と一問一答だけ。それも、目立たない2面で掲載する。

いくら岡山にOBが多いから、温かい目が必要だからといっても、この報道は違うと思うが、編

集担当取締役としてどうか。

日下 2面が目立たないと言われるのは心外だ。

藤井 1面ニュースではないか。

日下 1面に掲載してもおかしくないニュースだとは思いますが、2面でも十分、山陽新聞としてはちゃんと扱っていると思う。

藤井 そんなことはない。一問一答なんていうのは、淡々とやったことを載せるだけではないか。問題点の追及なんか、一問一答なんかじゃできない。だから「表層深層」があったり、解説記事があったりするんじゃないのか。山陽は、それらを一切載せてない。おかしいだろう。編集担当取締役として、きちんと考えてもらいたい。山陽新聞の紙面の質にかかわる問題だ。

バランス取らないといけない

日下 外部からも、そういうご批判も、もちろんいただいた。ただ、その逆の意見も読者からいただいている。そこはバランスを取らないといけないと思う。

藤井 ただ、バランスの取り過ぎというか、私は付度だと思う。あまりにも加計側に手厚いんじゃないか。

日下 そんなに加計に肩入れしているとは思っていない。

藤井 書くべき時には、きちんと書くんだ、どんなに仲のいい人でも、書くべき時には、きちんと書くんだということを、私は記者時代に教えられたが、いまがその時だ。きちんと書くべき時だ。こういう報道をしていると、山陽新聞の声価が、どれだけ西日本豪雨の時にいい紙面をつくっても、加計の報道ではあれだよ、と言われてしまう。豪雨の紙面は非常にいいと思う。足で稼いだ記事も出ている。非常に評価できる記事が出ている。でも、加計はだめ。そこを、さすが山陽新聞だといわれるような新聞にするために、編集担当取締役としてきちんと対応していただきたい。編集局を指導してほしい。

日下 ご意見は伝える。

2019年1月16日

山陽新聞労働組合ニュース

e-mail: sanyoshimbunroso@yahoo.co.jp